

IMAJ ニュース

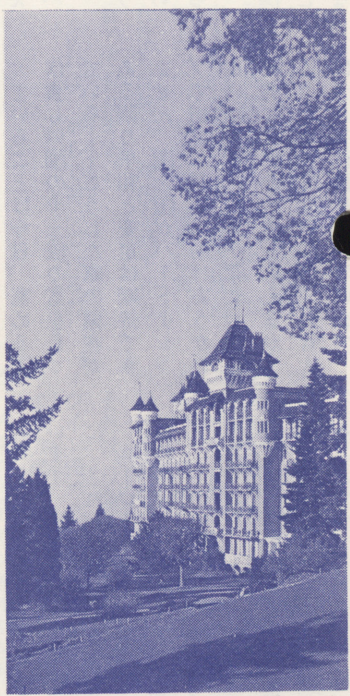
NO.11

国際MRA日本協会機関誌

発行年月日 昭和 52 年 3 月 1 日
 発行所 国際 M R A 日本協会
 発行者 柳 沢 錬 造
 (非売品) TEL. 03-374-7600

INTERNATIONAL MRA ASSOCIATION OF JAPAN

1977年 MRA 世界大会開催!!



会場のマウンテン・ハウス

一九七七年の幕あけとともに、スイスのコーにあるマウンテンハウスからMRA世界大会に日本の参加を呼びかける招せい状が届けられた。

今年も世界の各地から各界の代表が参集し、七月七日から九月上旬にかけて教育、産業、政治、青年各部門会議が開かれる。わが国からも、ぜひ有力な代表をこの会議に送りこみたい。招待状には、次のような言葉がのべられ、私たちの正しい選択と決意と行動を促している。

明日の世界のために

我々はこの道を選ぶか

インフレ、腐敗、失業、乱脈の社会か。

それとも絶対道徳標準を基盤とした清潔で秩序ある生き方か

利己的な目標のみを追求する社会か。

それとも全世界の人々が一つの家族としてお互いに助けあう生き方か

世界中で階級闘争が多発する社会か。

それとも資源、富、能力を自発的に分ちあう生き方か

物質主義に支配され心の乾く社会か。

それとも人々の魂が豊かに育つ生き方か
 その選択の年である。

世界経済の曲り角にたつ 産業界の新しい責任

スイス・コーにて8月31日～9月5日

歴史の推移は終局的に人の心が決定する。基本となる道義とイデオロギーの課題を理解せずに手に横たわる巨大な社会、経済の変革を正しく方向づけることは出来ない。

この会議はMRAの世界大会のわく組の中で、経営者、労働者、政治家の参加のもとで行われる。ご家族をも同伴されることを望みます。

◇ 政界、財界、労働界が建設的に協力しあうためにはどうしたらよいか

◇ 工業先進国と発展途上国の望ましい関係を
 作るために産業界は何をすべきか

- ゴット・フリード・アンリカ
- ロヂャー・シボ
- ネビル・クーバー
- マリオ・コスタ
- トルステン・ヘンリックソン
- アロア・モック
- ジョン・ムーア
- オナ・オナハイム
- フレデリック・ファイリプス
- ウイリー・レンズマン
- フリードリッヒ・シヨック
- アルフレッド・スモール
- 高瀬正二
- スイス、建設会社理事
- フランス、産業コンサルタント
- イギリス、スタンダード電話及びケイブル会社総務担当常務
- イタリー、コスタ船船会社社長
- スエーデン、キルナ・トラック会社理事
- オーストリア、国会議員、労働団体長
- アメリカ、スコビル製造会社副社長
- ノルウェー、経団連会長、アカグループ理事長
- オランダ、ファイリップス会社社長
- デンマーク、クリスチアニ・ニールセン会社人事部長
- ドイツ、シヨック会社常務
- アメリカ、国際港湾労組代議員
- 東京芝浦電機(株)常務

互いにもつと

理解しあおう

エンツ・ウイルヘルムセン

昨年来、MRA国際チームのエンツ・ウイルヘルムセン氏が来日しており、東京芝浦電機(株)の常務取締役高瀬正二氏、同相談役河原亮三郎氏、東京電機(株)駒井喜雄社長、同常務取締役鈴木睦二氏らの肝入りで東風会の幹部社員を対象に講演会が開かれた。ここにあげられたものは、その一部ですが、この会合が本号の第一頁に記載された通り近く開催される「産業界の新しい責任」と題するMRA世界大会の東京会議の推進力ともなったものでご紹介します。

現在、ヨーロッパと日本との間にはいろいろの問題があります。例えば先頃EC(ヨーロッパ共同体)が日本に示した船舶建造受注量の均等化などもその一例ですが、私たちヨーロッパ諸国が他の国の必要を考慮しない姿というものをヨーロッパ人として恥かしいと思います。このような国の自己中心というものはつきりした形であらわれているのが南北問題—富める国と貧しい国の関係です。

現在、先進国から発展途上国に援助がなされていますが、これは結果的に先進国の利益にな

エンツ・ウイルヘルムセン氏はここで南アフリカ、イギリスなど世界の各地で起きている事例をあげながら、日本とヨーロッパの友情関係の再評価を強調した。そして過去四年間、全世界の教育界、産業界の人びとがスイスのコーに集まり国際的規模で、新しい社会的、産業的革新について話し合い、その対策を行ないつつあるとき、びひ日本の声もつと聞かせてほしいとのべた。

ついで西独における共同決定法についての質問に答えたと最後の質問であるユーロ・コミニズムについて次のように話した。

自由を守る戦線

これは、新しいことばで、フランス、イタリー、スペインにおける共産党をさしていると思

います。過去一、二年間のうちに、これが発展してきました。ユーロ・コミニズムの一つの特徴は、一方ではプロレタリアートの独裁はもう終りだ、時代おくれだ、と言っており、他方では、西欧ともうすこし近い協力体制に入りたいと言っていることです。

こういった傾向が、どうして発展してきたかという原因をさぐってみますと、それは東欧に原因していると思われれます。スターリンニズムの本質をみたと

き、みんな驚きガクゼンとしたのです。プロレタリア独裁の道を行くと、あのようなひどい圧政になるということです。

第二のシヨックはソ連によるチェッコの占領であり、弾圧です。同じ社会主義の国でありながら、他の社会主義国の軍事的圧力を受けたのです。

ません。

現在、ヨーロッパではソ連の支配から離れて独立するということが、より得になるという、その地位を求めているのです。ですから、今日ではヨーロッパでは、モスコはちつとも人気がありません。

それには二つの理由があります。一つは人権の抑圧、もう一つは、特に青年層にも毛沢東主義が台頭しているからです。彼らは、ソ連を反動的で官僚的だともみているからです。

現在、ヨーロッパの共産党は、自分たちはソ連から独立しているといった方が、人々からより人気を得ることを知っているからです。

イタリーの社会主義者の人達は、もしも、自分達が政権の座にいったときでも、イタリーはNATOの一員に変わりはない、とも言っています。

これは私見ですが、このイタリーの社会主義者達の態度は、単に日より見的な考え方からだとは思いません。というのは、イタリーは隣りのユーゴーラを見ていて、ユーゴーラが、自国の社会主義を追求するために、或る程度の軍備が必要だということを知っているのを見ている

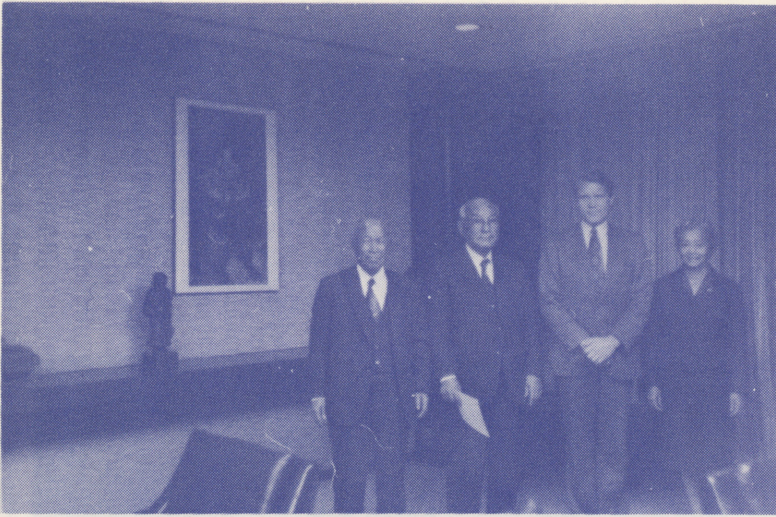
からです。

そして、おそらくイタリアの共産党はNATOの勢力のなかにある方がモスコーに対して、自分の独立を守りうると考えていると思います。

それから、また、ユーロー・

コミニズムの人達は、自分達が政権を獲得しても、やはり、民主主義的な方法である議会政治によって、もしも、選挙に負けなければ他党へ政権を渡すとも言うておられます。

これは、本心で言っているの



土光会長を訪問するウイヘルムセン氏

か、或いは、作戦的に言っているのかわかりませんが、ただ、この中で人権に対して徐々ではあるが、目覚めてきているというのには本当だろうと思います。それは、ソ連の中にソルジェニツイン氏で代表されるように、今まで共産主義者であった人達が、人権を求めてソ連体制を鋭く反撃しなければならぬ事実をみるからです。

こういった人達が、やはり自分達の体験を通じて現在の在り方を再考しだしてきているのです。その考え方が自然に、時を追うに従ってソ連の内部にも、或いはヨーロッパの共産主義者のなかからも真実の考え方への変化を生まないとはいえないと思います。

しかし、同時に、ヨーロッパのあらゆる国の共産党のなかにはモスコーに忠誠を誓っている何人かの人達が居ることもいえない事実です。

例えば、ノールウェイの共産党も、ソ連に忠誠を誓っている人達によって強迫されています。

問題は、フランス、イタリア、スペインのいずれかの国で、実際に共産党が政権を確立したときに、現在の共産党の内部のよ

り自由を求めている人達の方が伸びてくるか、或いは、今までのような共産党の行き方になるかは、これからの問題です。しかし、現在、そのような状態があることを十分、私達は認識する必要があります。

たしかに、資本主義から共産主義に経済が移行する過程に於て、その国は外からの援助なしには、それは出来ないということが証明されています。

これはキューバやチリ、ポルトガルでも見られたことです。もちろん、外部からの援助について西欧は何ら与えていません。この援助を与える国はソ連のみです。この援助には、もちろん、ヒモがついています。ですから、それぞれの国の共産党の内部の自由主義者の人達が何を求め、結局にはソ連の政圧下に落ちいるという事はいえないかも知れないのです。

しかし、状態は現在、混沌としており、将来、こうなるという事を明確に発言することはできないと思います。

西ドイツでは共産党は弱いのです。その理由は、はっきりしています。国が東西に分裂していること。ベルリンの壁が向う

側の自由の無さを象徴して現存しているからです。西ドイツの人口の四割が東独に親せきを持っています。ソ連に対する憎しみは、東独に於てはポーランドと同様に強いのです。しかし、西ドイツの、特に大学の学生の間にはマルキスト的な考え方が広がっていることも事実です。

こういった考え方を持った人達が現在、西ドイツのあらゆる社会に入っています。これは将来、相当影響をおこすことではしよう。

もしも、フランスか、イタリアに共産党の政権が出来たら、どういふ結果になると思われま

すか。

第一に西ドイツの状態、立場が無くなるでしょう。片方に東独を抱え、そして、フランスが共産党になった場合は挟み撃ちをうけるわけです。また、ヨーロッパからアメリカの軍隊が撤退することにもなるでしょう。

そうした場合にはソ連の覇権が拡大するでしょう。これは必ずしもソ連の軍事的占領を意味するものではないと思います。

そうした場合、西ヨーロッパの状態は今日のフィンランドに類似してくるかとも思われます。

今日のフィンランドの状態というのは、政治的にも経済的にもソ連の思うままになっているのです。

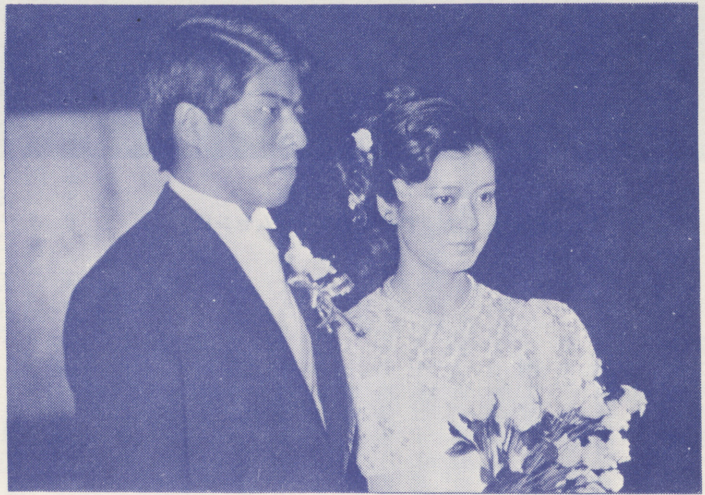
ただ、西ヨーロッパの将来を考えてみると、政治的な、或いは、経済的な制度の変化について、心を聞いておかなければならないように思います。

今日のようなままの現状維持に安住していることは出来ないと思います。

ただ、最後に守らなければならないことは、人権だと思いません。言論の自由、選挙の自由、良心の自由、それが、今後、将来に闘わなければならない戦線だと思いません。

この点ならば共産主義者のうちのまじめな人達も、自分達の考え方を変えるかも知れませんが、私は問題は共産主義自体にあるのではなくて、私たちに与えられている自由を悪用するため、その結果として共産主義を生み出していることです。私どもがこの自由を利己的でなく本當の姿で生きるとき、誠実な共産主義者をも勝ちとることができると信じています。

これが今日の明日への最上の希望だと信じております。



決意とよろこびに輝やく住友裕郎君と金森奈津子さん

世界のあり方に

責任を持つとする若い二人

住友 美子

「十二月五日の長男の結婚披露宴を通してこれを最高のものにする」と私共が強く感じまし

たのは十月東京でのMRA大会からの帰途の車中でした。

是非海外からも友人をお迎えしたいと願い、御協力を得てノルウエーからエンツ・ウイルヘルムセンさんが、東京からは相馬雪香さん、本郷富士子さんが御出席下さいました。

御媒酌の柴山幸雄様御夫妻は掌でアメリカ、マキノ島で開かれたMRA世界大会にも御出席の御経験がおりになり、若い二人がMRAを通して何を学んだかを四つの道義標準にもふれてご紹介下さり、主賓のお一人大阪商工会議所会頭の佐伯様もMRAは個人のチェンジによって世界を再造しようとする面にふれられ、エンツさんはMRAが無私の目的を信条としているから若者の心を捕え世界に大きな貢献が出来る、今日世界に秩序の答を与えるにはこれを通してしかない。二人が生活を通してこの答を与えようとしている事をお話し頂いた。

雪香さんは愛の本當の意味をMRAを通して始めて学んだ、今後の日本は世界から尊敬され愛されねばならないが世界の人から信頼出来る素質を持った二人がどうか初心を忘れずにと激励して下さい、宴の雰囲気はきわめて格調高いものとなりました。

た。

若い二人も結婚を通して世界の在り方に責任を持つ事を改めて強く感じた事と存じます。私たちはこれから共に静かになつて何が正しいかを聴く事が出来ますし、人生の目標と生活の基盤が同じである方を家族として迎え入れられた事は何よりの喜びでございます。また裕郎の世界家族の中の貴重な体験は今後一商社員として僻地に出向かなければならない場合もその地に住む人々の問題を共に分かち合い答を与える精神を忘れなければ、その国の為にも日本の為にも世界の為にも役立つ事が出来ると思えます。また危険に際してもガイダンスに従えば身を処する方法もわかりましょう。計らずもこの宴を通して私共夫婦は決して後退しない事を決意する結果となりました。

私共にはほんの一部しか分らないが神には神の計画があり、その表現の方法は時には想像も及ばぬ見事な華麗さを持つて実現する事を学びました。

心からの感謝と共に今後お互いに力を合わせて世界再造の為に尽したいと存じます。

●カナダ・インディアンの祈り

偉大なる魂よ

風の音にも その声が聴こえ

その息吹きは

地上のすべてにいのちを与え

あなたの多くの子供たちのなかの

小さくかよわい私に

力と叡智を与え給え

私の眼は

荘厳な夕陽のなかにも

あなたの創造された美しさを見

あなたの道を歩かせ給え

私の耳は

あなたの小さなささやきさえも

聴きのがすことのないように

私の手は

あなたの創造物の

すべてを大切にし

一枚の小さな木の葉にも

あの大きな岩のなかにも

秘められた数々のあなたの教えが

わかるかしこさを与え給え

私に力を与え給え

兄弟達にうち勝つためではなく

最大の敵、内なる自我と闘うために

澄みきった目と

清らかな手で

いつなりともあなたのもとに

もどれるように

夕陽が大地に沈むように

私のいのちがつきるとき

恥じ入ることなく魂は

あなたのもとに

還れますように

(カナダ・ケベック州アベキナ博物館所蔵)

かつてイギリスとの間に第七
条約という取極めを結んだカナ
ダ・インディアンの族長達が、
昨年の六月から三ヶ月にわたっ
てMRAアジア勢力を招待し
た。その一人アーノルド・クロ
ーチャイルド氏(ブックマン博士と親
交のあったサルシー種族の酋長の次男で今回の
MRA活動の責任をとった人)は次のよ
うに語った。

「我々は百年以上も、ヨーロ
ッパ文明に支配されてきた。そ
のため我々自身の言葉、文化、
習慣を失ってしまった。

インデアンでない人達が来て、
我々を変えようとし、利用しよ
うとした。そのため、或る者は
教育を使い、また、或る者は酒、
金を使った。

我々は混乱し、自分達相互に
対する尊敬の念を失ってしまっ
た。我々は劣等感に落ちいり、
分裂をした。

我々インディアンの祖先伝来の
教えは、偉大なる魂、即ち、創
造主が、自らをふくめた各人々、
その生き方を教え、すべての被
創造物との正しい関係を持つこ
とである。

そは復活の道をこのMRAア
ジア勢力は示してくれた」

精神革命と経済開発に

前進する韓国

「すごい経済発展の速度である。これから山あり谷ありだが、血と汗を流してきた涙ぐましい努力の成果だ」と雀圭夏首相は自賛の一方で、「油断」もきびしく戒めている。

また朴大統領は「八〇年代には一人当たりの国民所得は千ドルの線をこえ、輸出は百億ドルの線を突破しなければならぬ。輸送網を強化して全国が一日生活圏とならねばならず、都市と農村の格差を縮めねばならない」と抱負を語っている。

こうして政府も経済界も「韓国経済は若い経済だから、まだまだ伸びるのは当然である」という大きな自信をもっている。

事実、農林所得に例をとっても現在は都市勤労者所得を上回るまでに向上している。

こうしためざましい変化を推進しているのは農民の意識を目

ざめさせ、生産向上に向かせたセマウル（新しい村）運動であろうし、最近では都市セマウル運動、工場セマウル運動も展開されているとのことである。

九月十五日、私は韓国MRA本部の招せいを受けて、相馬雪香さんと藤森英和君と一緒にソウルを訪問した。空港には本部代表の鄭濬さん、車光善さんが出迎えてくださった。鄭濬さんとは実に二十四年振りの再会だった。七百万人の大都会、ソウルの町は高層ホテルの林立する近代的な大都会で、若い経済国の活況を示していた。しかも交通の混雑にかかわらず街全体は整然としており、清潔であることに私は驚いた。

「みて下さい。街を歩く人たちの明るい表情を」とうながす鄭濬さんに私は大きくうなずかざるを得なかった。「今年は米

が豊作でした。農業開発事業として南部の梁山江上流に四つの農業用ダムを完成させます。しかし何と云っても鉱工業生産に力める重化学工業の比重が四二・八%と最高です」

話しているうち私たちの車は中央高等学校の正門に到着した。その日、この学校ではMRA集会が開かれていた。大講堂の中には千数百名の制服の学生がぎっしりと整然と居並んでいた。

私たちは壇上に並んで全校生徒に紹介され、歓迎の拍手をうけた。相馬雪香さんが韓国語で挨拶をのべると熱狂的な拍手で応えてくれ、次で生徒たちの宣誓、分担、宣言が、大統領閣下に、恩師に、両親にと読みあげられ続いて力強い歌声が元気に強く願いを込めるように次々と披露された。寒い日で私は身体を固くして座っていたが、その熱気に時の経つのを忘れてしまっていた。

聞くところによると現在、韓国では、中学、高校、大学に約四百を数えるMRA集団があるそうだ。古い伝統の誇りをもち、経済的に若い韓国が、将来を担う若い学生たちの中に、かくも深くMRAが浸透しているとい

うことは、何にもまさる国家建設の大計だと考えさせられた。

翌日、私たちは「指導者の精神」をテーマとする韓国のトップレベルの人々の集會に招待されたのだが、そこでは三時間にわたって各自の立場から指導者精神の重要さとその必要性、その論理性について語られた。南北統一長官、代議士、学長、教授たちが次々と所信を発表したあとMRAの学生たちによる合唱があった。そして最後に、主催者を代表して鄭濬氏が挨拶にたったがMRAに対する期待と確信にみちた有意義な会合だった。

こんどの訪問で、いろいろの方がたのお世話になったが特に首都女子師範大学の朱永夏学長先生ご夫妻、泳薫中学校校長の金麟沫先生、中央高等学校校長の韓桔愚先生、祥明女子師範大学長の喪祥明先生などMRAに献身されている方がたを忘れることができない。

韓国は私たちの想像以上にたくましく経済開発が進められそれと同時に若い学生と指導者の中に深くMRA精神を基盤に精神革命が進んでいる。

御案内

- 一、本協会に入会を希望されま
す方は、〒一五一、東京都渋谷区代々木一ノ三八 ミヤタビル七〇七 国際MRA日本協会宛御申込み下さい。関係資料を御送り致します。（電話〇三―三七四―七六〇〇）
- 二、会費は年額で正会員五、〇〇〇円、賛助会員個人三、〇〇〇円、法人五〇、〇〇〇円で、払込先は第一勧業銀行代々木支店（口座番号一六三一―一〇一四三三六、国際MRA日本協会宛）となっております。
- 三、なお、入会申込み後未だ御送金なき方は至急お振込み御願ひ申し上げます。

〒151 渋谷区代々木一ノ三八

七〇七号

国際MRA日本協会

☎03―三七四―七六〇〇

取引銀行第一勧業銀行代々木支店 口座番号一〇一四三三六号

（中島勝治記）